暮らしに かり を プラス

灯りコラム Vol.20

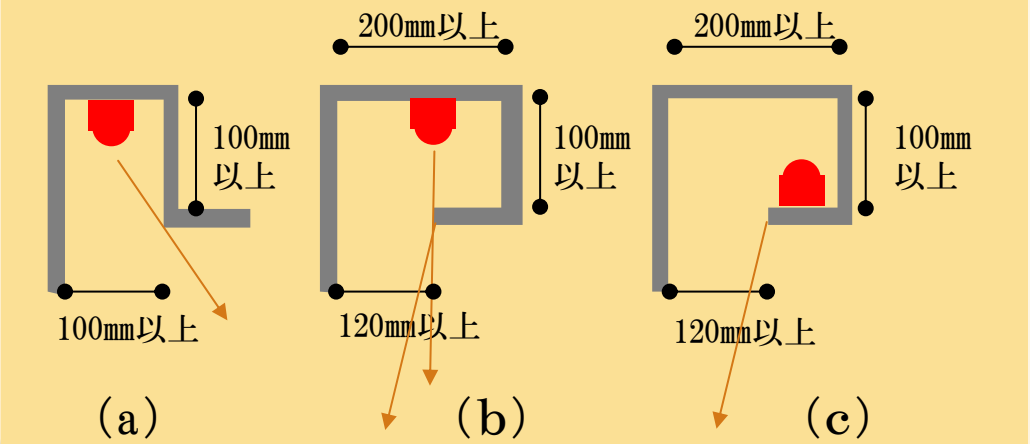
壁面照明のイロハ④
～ コーニス照明の考え方 ～

壁面を照らすコーニス照明

コーニス照明の利点は壁面の素材を活かすこと。光を「なめる」という表現を用います。理想は（b）。施工がやや大変ですが一番壁面がきれいに照らすことができ、且つ、床面にも光が落ちます。素材に凹凸があれば陰影が立体的な演出に仕上がります。鉛直面の照度を確保する目的ですから、絶対的な明るさよりも「明るさ感」を作ることを意識すると良いでしょう。視線が止まる箇所。例えば、玄関を入った先にある壁。廊下の突き当たりの壁、トイレの壁、和室の壁などです。玄関やトイレの壁などは割と少ない面積で効果を得られるので、少し高価な素材を選んでも良いでしょう。

（a）の場合、折り上げの高さが100ミリ以下になると光源が目に入り不快な眩しさが目に入ります。（c）の場合、光源が見えない理想的な施工ですが、上部に光が溜まり少々もったいない気もしますが、電気工事側から見ると器具を顎に乗せるだけですから、（b）より簡単です。

コーニス照明の目的は壁面を照らし、鉛直面照度を確保するための手法。光源は上部に設置し、光は上から下へが基本スタイルです。



色温度の選定とセンサースイッチ

次に検討する材料は色温度。素材の表情を演出する重要な要素です。ですが、素材が白色だからと言って白色の光を選ぶと良いか？白色や寒色系を演出するのは高色温度が良いですが、それは照度が十分に足りている時です。「クルーゾフ効果」をあてはめると、照度が低い高色温度は陰気に感じてしまいます。住環境では3000ケルビン以下の低色温度を選ぶ方が空間としては品がが出ます。光環境を設計する際は、空間から受ける快適性を心理面と合わせて考えると良いでしょう。

もう一つはセンサースイッチ。玄関、廊下など一時的に利用するスペースはセンサースイッチが便利です。ダウンライトと間接照明を別回路で入り切りすると、ほとんどがダウンライトを優先し、演出用の間接照明は使われないことが多い傾向です。同じ回路で結び、且つ、センサースイッチ連動がお勧めです。

問い合わせ　株式会社灯り計画

照明計画を切り口に暮らしの提案の幅を広げてみませんか？
インテリアを引き立てる照明術。
豊かな暮らしには、照明の効果や演出が必須アイテム。
こだわりの場所やちょっと自慢の場所のインテリアに灯りのスパイスを効かせた提案をしてみてはいかがでしょうか。

info@design-akari.com
Tel：04-7196-7142